

決算概要と山武グループの新理念、長期目標

株式会社 山 武

2006年11月17日

azbil

4期連続増収増益を達成予定

事業構造の変革(商いの創造)

プロダクト事業／ライフサイクルにわたる総合的ソリューション事業

BA・AA・LA協業による事業拡大

LA事業の創出・拡大

海外事業基盤強化

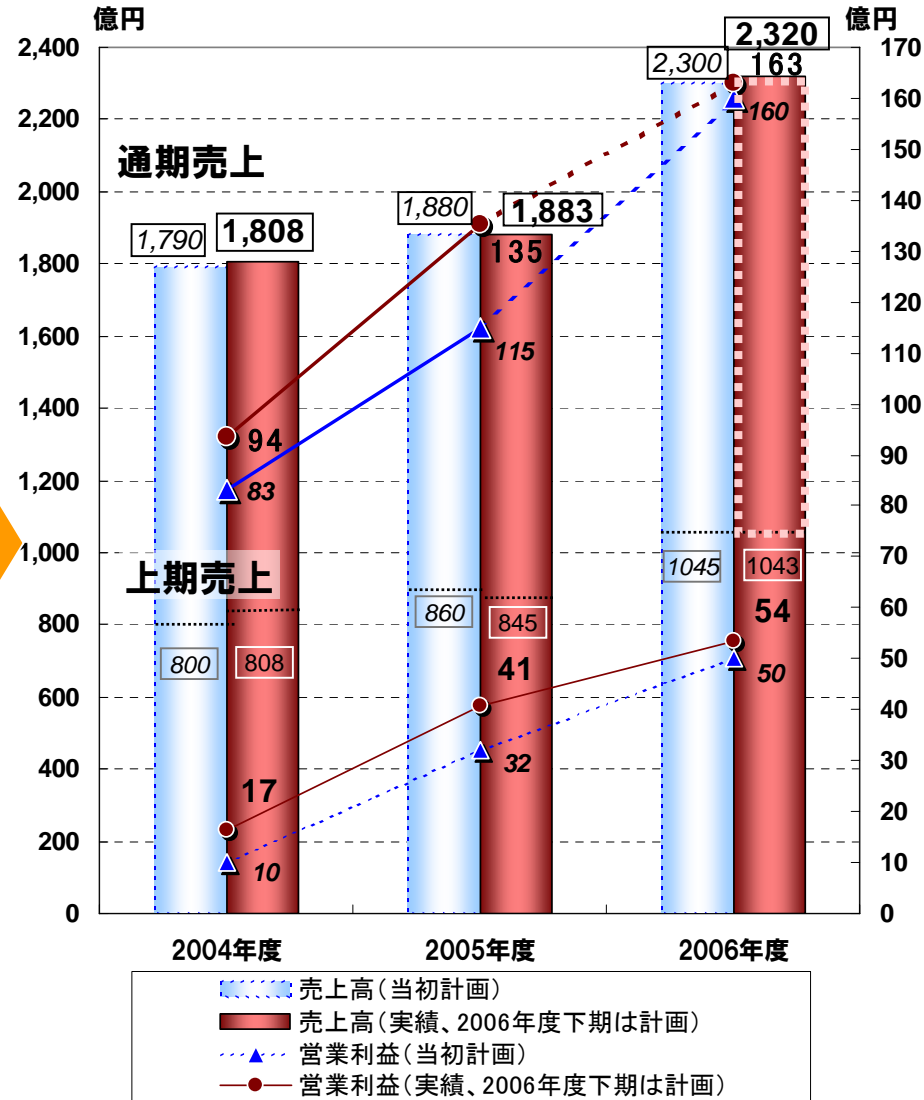
業務構造の変革(働きの創造)

国内生産体制再編、中国工場増築・生産能力強化

営業機能統合によるシナジー創出、スタッフ生産性強化

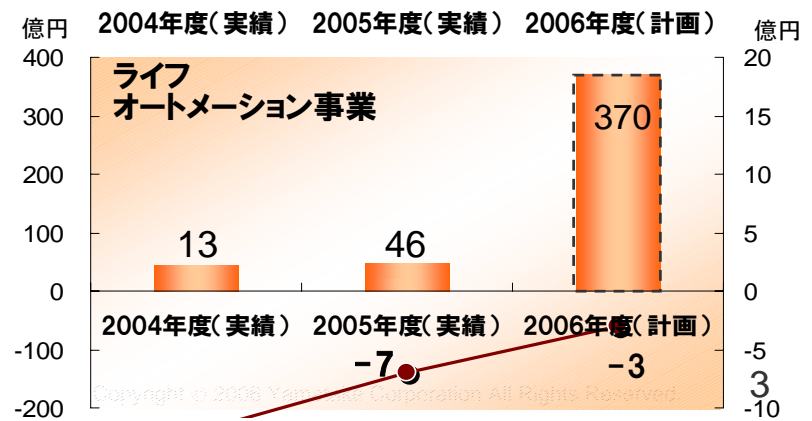
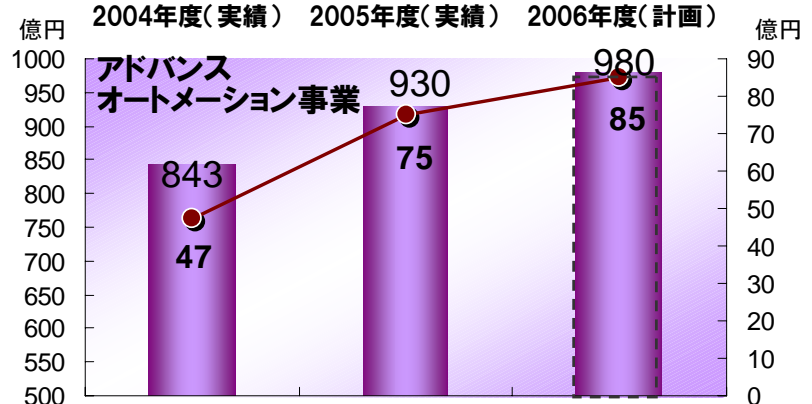
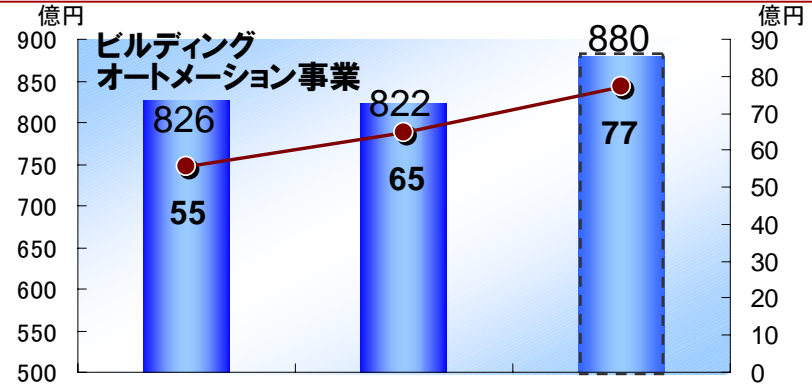
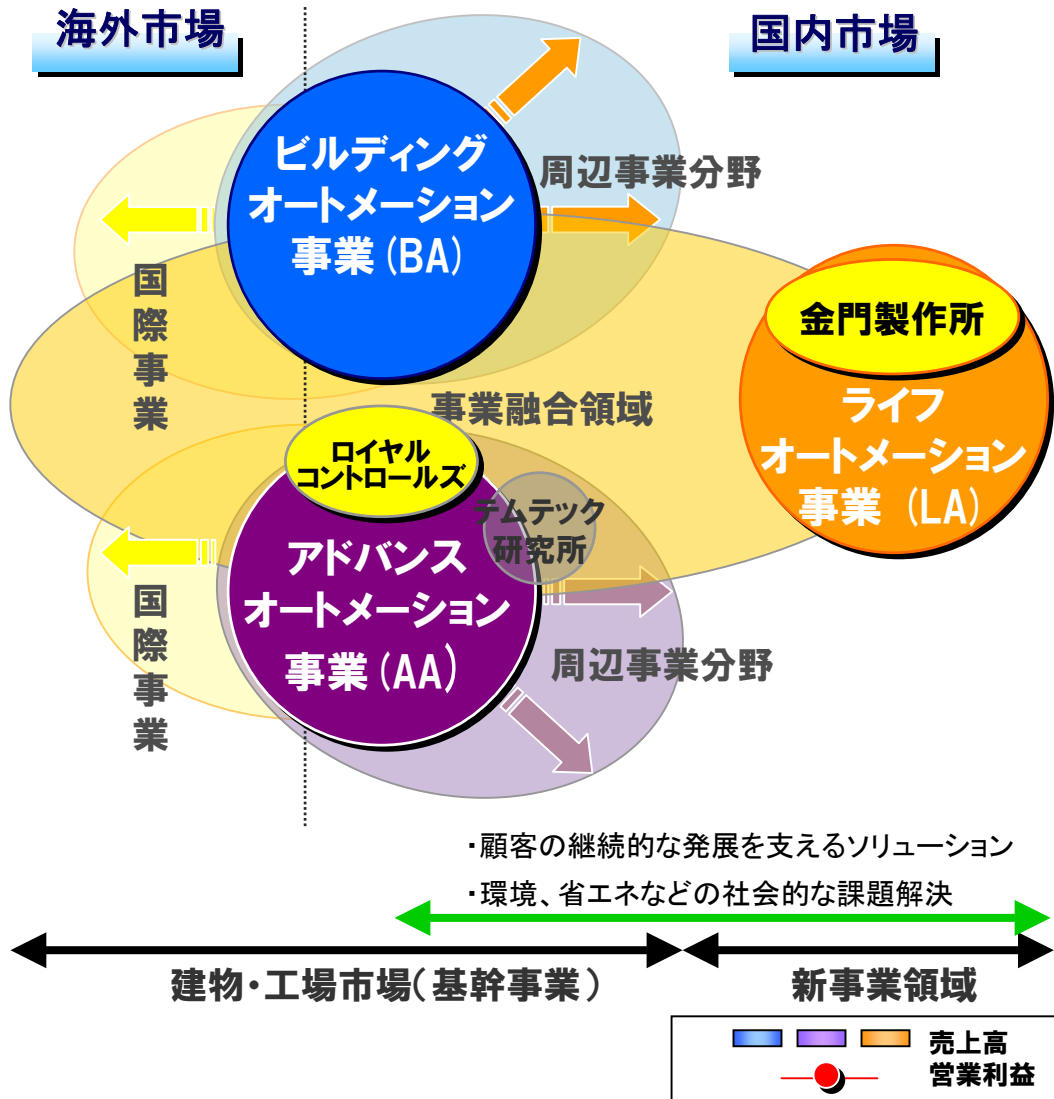
研究・商品開発・エンジ機能の連携強化による商品開発力強化(山武テクノセンターへの人的リソース集約)

気持創り(新しい企業文化の創造)



～ 事業構造の変革 ～

BA、AA、LA事業における領域の拡大、成長の実現



- 売上高は、1,043億円と期初計画(1,045億円)に若干届かないものの、BA事業の伸長と金門製作所の連結を主因に197億円(23%)と大きく増加。
- BA事業が貢献し、営業利益は13億円(32%)の増益。
- 前年度の一時的要因(東京事業所の土地一部売却、有価証券売却益等)により税引前・当期利益は減少。

(単位：億円)

		2005年度 (2006年3月期)	2006年度 (2007年3月期)		前年同期比増減	
		上期実績 (a) (2006.5.17)	上期実績 (b) (2006.11.16)	修正公表値 (2006.8.7)	(b)-(a)	%
連結	売上高	845 億円	1043 億円	1,045 億円	197 億円	23.4 %
	営業利益	41 億円	54 億円	50 億円	13 億円	32.0 %
	売上比%	4.8 %	5.1 %	4.8 ※ %		
	経常利益	43 億円	56 億円	53 (48) 億円	13 億円	31.3 %
	税引前利益	66 億円	56 億円	※	-10 億円	-15.2 %
	当期利益	39 億円	33 億円	30 (22) 億円	-6 億円	-14.9 %

※ 期初計画値(2006年5月17日発表)

- BA/AA両事業の着実な伸長に加えて、金門製作所グループ化によるLA事業領域の拡大で連結売上高は437億円(23%)の増加。AA事業ではロイヤルコントロールズ連結による増収も見込む。
- 国際事業(内数)も上期売上102億円の実績を踏まえて通期200億円以上の売上達成を見込む。
- BA/AA両事業の利益増加により、営業利益では28億円(21%)、通期では当期利益も1億円(1%)の増加。

(単位：億円)

	2005年度 (2006年3月期)			2006年度 (2007年3月期)			前年度比較増減	
	上期実績	下期実績	通期実績(a) (2006.5.17)	上期実績	下期計画	通期計画(b) (2006.11.17)	(b)-(a)	%
連結 売上高	845 億円	1038 億円	1883 億円	1,043 億円	1,277 億円	2,320 億円	437 億円	23.2 %
営業利益	41 億円	95 億円	135 億円	54 億円	109 億円	163 億円	28 億円	20.6 %
売上比%	4.8 %	9.1 %	7.2 %	5.1 %	8.6 %	7.0 %		
経常利益	43 億円	96 億円	139 億円	56 億円	107 億円	163 億円	24 億円	16.9 %
税引前利益	66 億円	91 億円	157 億円	56 億円	102 億円	158 億円	2 億円	1.0 %
当期利益	39 億円	59 億円	98 億円	33 億円	66 億円	99 億円	1 億円	1.1 %
ROE			9.3※ %			8.7 %		

※ 2005年度は、特別利益に東京事業所の土地一部売却、有価証券売却益を計上。これらの計上がなかった場合のROEは7.5%(参考値)

2006年度中間配当・期末配当予定



(中間) (期末) (年間)

2006年度
25 円
+
25 円
=
50 円

■ 中間配当額の推移

	2003年度 (実績)	2004年度 (実績)	2005年度 (実績)	2006年度 (予定)
中間配当金推移(1株当り)	6 円	10 円	20 円	25 円

参考:年間配当の推移

	2003年度 (実績)	2004年度 (実績)	2005年度 (実績)	2006年度 (予定)
年間配当金推移(1株当り)	14 円	23 円	50 円	50 円
普通配当	14 円	23 円	40 円	50 [※] 円
記念配当	0 円	0 円	10 円	0 円
配当金額	10.3 億円	16.9 億円	36.8 億円	36.8 億円
株主資本配当率	1.1%	1.7%	3.3%	3.2%
配当性向	31.8%	45.6%	37.6%	37.2%

※ 普通配当を年間で10円増額

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。

そのために

私たちは、お客さまとともに、現場で価値を創ります。

私たちは、「人を中心とした」の発想で、私たちらしさを追求します。

私たちは、未来を考え、革新的に行動します。

シンボル



●azbilの意味：Automation・Zone・Builder

グループ理念である「人を中心としたオートメーション」で、人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します、という思いを込めました。

新たな長期目標は、これまでの実績をもとに、現中期計画開始年である2004年を起点とした10年目標(2013年度)として策定。

目標

人を中心に据え、人と技術が協創するオートメーション世界の実現に注力し、顧客の安全・安心や企業価値の向上、地球環境問題の改善などに貢献する世界トップクラスの企業集団になる。

長期目標への展開ステップ

2004～2006年度 「気持ち創り期」

- ・「シナジー」による連携強化、グループ連結での利益・協業のマインド創り
- ・第3の柱としてのLA事業整備と海外事業基盤の強化

2007～2009年度 「基盤を確たるものにする期」

- ・「顧客満足」と「山武ならではの」を支点とした継続性・成長性
- ・BA、AA、LAのありようの革新による高付加価値体質の創り込み

2010～2013年度 「発展期」

- ・「人を中心としたオートメーション」を事業として確立
- ・世界トップクラスの企業グループに

営業利益300億円
以上を創出